

産業技術連携推進会議近畿地域部会デザイン分科会議事録

日時：平成 21 年 2 月 19 日（木） 午後 2 時～5 時

場所：パルスプラザ第 4 会議室

共催：独立行政法人産業技術総合研究所

1. 分科会長あいさつ

京都府において、産学公が集う京都最大規模のビジネス・イベントである「京都ビジネス交流フェア 2009」が開催している機会に分科会を開催した。また、この会場の隣に京セラ本社があり、デザインに関係している「京セラファインセラミックミュージアム」も見学してもらい、伝統と革新、伝統と先端技術の融合の視点も見ていただきたい。

2. 議事

①各機関の事業、活動報告の状況

■福井県工業技術センター

研究テーマ一般研究 3 つ、共同研究 1 つ、事業化にはまだ至っていない。

■滋賀県工業技術総合センター

感性価値創造事業の一環として、ものづくり価値を評価する手法の開発研究を行っている。その事業については本年度まで、感性に対する反応は高いので、次年度以降も形を変えて行う。

■滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場

試験場で発行している情報誌「陶」の内容をもって、現状報告。

■京都市産業技術研究所繊維技術センター

22 年 10 月に京都リサーチパークに移転。研究としては、蓄光糸を活用した織物開発。JST 採択研究からの発展している。昼夜で異なる文様の織物も可能。研修については、友禅は全行程 1 貫で行っている。

■京都市産業技術研究所工業技術センター

竹を活用した電気自動車を産学公連携で実施し、デザインを担当。産業技術連携推進会議デザイン分科会でも実施した「京都らしさ」のユーザー意識調査がまとまった。

■大阪府産業デザインセンター

印刷メディアの予算がとれないことから、デジタルメディアを推進している。現在注力しているのは、BMB マッチングブログとキッズデザイン。BMB マッチングブログは、会員 200 名。内容について京都府中小企業技術センターのページで解説。キ

ッズデザイン関連は、こども OS 研究会を実施し、こども特有の思考を読み解いている。

■兵庫県立工業技術センター

感圧センサを用いた操作パネルデザインに関する研究を行っている。関節駆動型マネキンの研究開発を行っている。

■近畿経済産業局（オブザーバー）

- ・ 中国、韓国、台湾が技術力だけでなく、デザイン力もアップしている中、中小企業のさらなるデザイン力の向上が必要。

デザインの中小企業への理解を図るために、デザインマネジメント、デザインと知的財産関連の事業を中心に実施している。

新規事業としては、近畿のデザイン MAP を作成し、関西デザイン 100 選的なものづくりたい。

- ・ 事業説明

デザイン人材育成シンポジウム

デザイン道場

LIVING&DESIGN これからの住空間要素展

■産業総合研究所関西センター

地域イノベーション創出シンポジウムについての案内

■京都府中小企業技術センター

デザイナーとものづくり企業のマッチングに注力。デザインの新領域の開発には、研究会で実施している。現在、新工芸、映像、統合医療の3つの分野で取り組みを行っている。

②各府県の地域企業と地域イノベーションの取り組み

各府県ともこれからの取り組みとなり、特記するような取り組みはなかった。

③意見交換（各機関の連携方法について）

■製品開発事例の作成について

- ・ 冊子作成については、経費も伴うことで各府県の実情に沿った形で一律化は困難ではないか。各機関のホームページ等にアップし、リンクをはることから始めても効果があるのではないか。（京都府）
- ・ ウェブについて、まず取り組んで実態をつくってはどうか。（大阪府）
- ・ どのようなことをやるかが大事。各機関でメリットがあるものが必要。（滋賀県）
- ・ 中小企業とデザイナーが組むとどんな利点があるかという視点も大事。（近経局）
- ・ すでに作成している。冊子にすることで、内外に訴求し、職員の励みにもなって

いる。(兵庫県)

- ・ 開発事例だけでなく、どこに行けば試作ができるか等の情報共有も大事ではないか。(福井県)

④その他

22年度に福井県で全国のデザイン分科会を開催する。大きなイベントがあれば大阪、京都の開催場所でおこなってもという考え方もあるがいかがかという問いかけが福井県からあったが、福井県内でも優良な地場産業があり、他府県にとってもそれを勉強する機会になるのでないかという意見交換がなされた。

21年度分科会会長 滋賀県工業技術総合センター所長 中村吉紀(終了後、後日確認事項)

3. 講演

■京都におけるデザインの現状-拡大するデザインの役割

講師 吉田治英(京都府特別技術指導員、㈱GK 京都代表取締役)

(株)GK 京都が実施している状況から京都を中心に地域が抱えているデザインへの期待等を講演いただいた。

GK 京都のデザインワークについては、①生産、開発提案型②業務調整型③研究提案型に分類している。

①は、具体的なトランスポートーションのプロダクトからその商品に関わるコミュニケーションデザインまでの提案である。

②は、モバイルフォン等プロダクトデザインは主にメーカーのデザイナーが行うが、全体の商品コンセプトを出していくデザインワーク。

③は、業務以前の段階で社会的な要請に基づき大学と連携しながら実施しているプロジェクト形式のものである。

特に③は、地震の際の津波のピクト等公共に対するデザインと深く関与している。

4. 見学

■KYOTO DESIGN WORK SHOW (パルスプラザ)

京都府内で、ものづくりを支援するプロダクトデザインの3事務所、1研究会の紹介。

■京セラファインセラミックミュージアム(京セラ本社内)

展示品以外に京セラで製造されている「京都オパール」の展示。